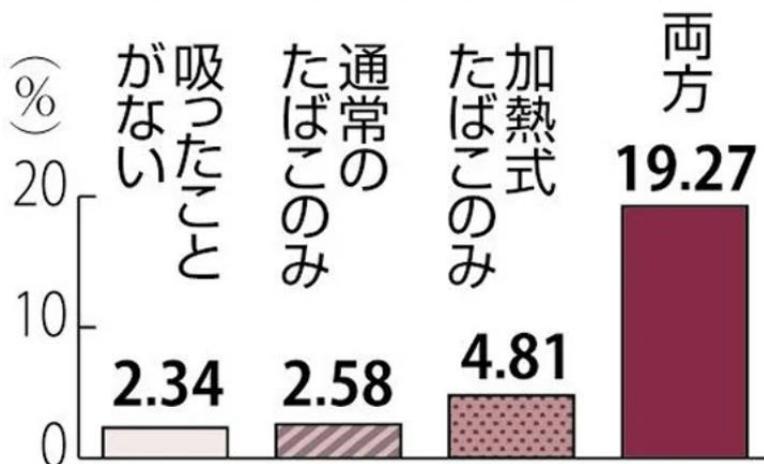


週刊 タバコの正体

新型コロナウイルスの感染が始まって3年が経過しました。未知のウイルスによる病気が世界中に広がるパンデミックとなったわけですが、日本における感染者総数は3300万人を超え、死者も7万人以上にのぼりました。思い起こせば感染防止のため「密閉、密接、密集」を避け、登校せず自宅で学習する事から始まり、遠足や修学旅行などの学校行事や部活動とその大会などが中止されるなど、皆さんには大変気の毒で可哀そうな月日でした。

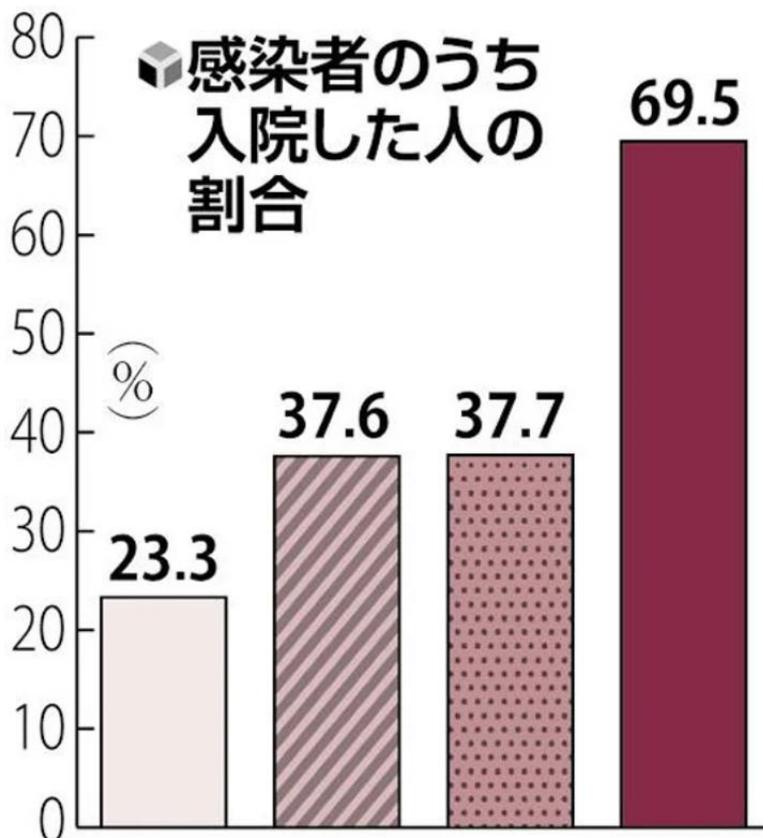
喫煙と感染率の関係



そのパンデミックも、ようやく出口が見え始め5月からは新型コロナウイルス感染症もインフルエンザと同様の扱いとなる見込みとなりました。とはいえ、現在も感染者がなくなったわけではなく、全国で毎日1万人前後の感染者が発生している状況です。

そこで、左のグラフを見てください。これは、大阪公立大と大阪国際がんセンターの研究チームが発表した喫煙と新型コロナウイルス感染との関係を示したグラフです。インターネット調査会社がオンラインで調査した3万130人のうち、感染した1097人について分析すると、グラフのように喫煙者している人の感染率が10倍程度高く、また入院した人の割合も3倍近く多かったそうです。つまり、タバコを吸い続けているとコロナウイルスに感染しやすく症状も重くなりやすいという結果です。

感染者のうち入院した人の割合



今後は様々な社会活動が以前のように活発になって行きますが、コロナウイルス感染症がなくなったわけではありません。感染防止のためには、タバコは禁物だと心得ておいて下さい。

産業デザイン科 奥田恭久